



平成24年度  
臨時10月号  
広島市立牛田中学校  
(電話：221-9073)

## ～特集 全国学力・学習状況調査～

今年度の「全国学力・学習状況調査」(中学校の対象学年：第3学年)を、4月17日(火)に実施しました。全国及び広島県の平均正答率をもとに本校の状況(定着状況と課題)を分析しましたので、その概要をお知らせします。今後の本校の教科指導に活かしていきます。

### 1 教科の調査の内容<国語・数学>

A問題……主として「知識」に関する調査(身に付けておきたい知識・技能)

B問題……主として「活用」に関する調査(知識・技能等を実生活に活用する力)

### 2 調査の結果

#### ◎ 国語について

**A問題** 領域ごとの平均正答率(%)

領域	全国	広島県	牛田中
領域全体	75.1	75.3	82.2
話すこと・聞くこと	87.7	88.6	94.7
書くこと	88.1	89.2	93.0
読むこと	65.4	64.7	76.4
言語事項	73.7	74.0	80.3

問題形式による平均正答率(%)

領域	全国	広島県	牛田中
領域全体	75.1	75.3	82.2
選択式	76.1	76.1	81.4
短答式	74.1	74.6	83.0
記述式			

**B問題** 領域ごとの平均正答率(%)

領域	全国	広島県	牛田中
領域全体	63.3	63.6	69.8
話すこと・聞くこと	59.9	60.8	64.0
書くこと	57.4	58.5	63.8
読むこと	61.5	61.4	69.6
言語事項			

問題形式による平均正答率(%)

領域	全国	広島県	牛田中
領域全体	63.3	63.6	69.8
選択式	67.7	67.5	73.7
短答式	84.3	84.0	93.0
記述式	49.0	50.4	55.6

## 【定着状況と課題】

- ☆ すべての領域において、全国および県の平均正答率を上回っており、今回出題されている学習内容を概ね身に付けていると考えられます。
- ☆ A問題においては、ほぼすべての設問で全国および県の平均正答率を上回っており、基本的な知識・技能は身に付いていると考えられます。特に、「比喩を手掛かりにしながら文脈をたどり、内容を理解する」や「比喩という言葉と結び付けて、表現の仕方を理解する」の正答率は、全国および県平均を10ポイント以上上回っています。
- ☆ B問題においては、「相手の発言を注意して聞き、自分の考えを書く」設問の正答率がもっとも低いです。生徒質問紙からも、65%以上の生徒が「400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くこと」、「自分の考えを他の人に説明したり、文章を書いたりすること」に苦手意識を持っていることがわかります。

## 【改善に向けた取組】

- ☆ 今後は、さまざまな文章に読み慣れさせるとともに、目的に応じて必要な情報を読み取ったり、場に応じて適切な言葉を使用する学習に、より一層力を入れます。
- ☆ 知識・技能などを実生活に活用する力を伸ばすために、自分の考えを交流したり、根拠を明確にして説明したりする発展的な学習の場をより多く設定していきます。

## ◎ 数学について

**A問題** 領域ごとの平均正答率(%)

領域	全国	広島県	牛田中
領域全体	62.1	62.4	72.5
数と式	67.5	67.3	78.8
図形	66.7	67.4	75.7
数量関係	52.1	52.6	62.9

問題形式による平均正答率(%)

領域	全国	広島県	牛田中
領域全体	62.1	62.4	72.5
選択式	59.7	59.9	68.9
短答式	65.5	66.0	77.5
記述式			

**B問題** 領域ごとの平均正答率(%)

領域	全国	広島県	牛田中
領域全体	49.3	49.8	62.1
数と式	40.9	41.9	56.4
図形	59.7	59.6	71.0
数量関係	39.8	40.6	52.3

問題形式による平均正答率(%)

領域	全国	広島県	牛田中
領域全体	49.3	49.8	62.1
選択式	58.4	58.2	69.5
短答式	65.4	65.6	75.7
記述式	34.0	34.9	49.3

## 【定着状況と課題】

- ☆ すべての領域において、全国及び県の平均正答率を上回っており、今回出題されている学習内容を概ね身に付けていると考えられます。また、すべての問題において、無解答率が低く、意欲的に取り組んでいる様子が見えます。
- ☆ A問題においては、「5つの文章から1次関数を表した事象を選ぶ問題」が全国平均正答率を下回っていました。具体的な事象を数学と結びつける力が弱かったり、比例・反比例・1次関数などの区別が充分身に付いていないと考えられます。また、県及び全国平均正答率を上回っているものの、定着に課題があるものとして、「整数 $a$ を用いて、式 $2a$ で表すことのできる数を選ぶ問題」「 $n$ 角形の内角の和を求め、 $(n-2)$ が表すものを選ぶ問題」が挙げられます。
- ☆ B問題においては、すべての問題で県及び全国平均正答率を上回っています。しかし、県及び国と同様に、記述式の問題の正答率が低い傾向にあります。

## 【改善に向けた取組】

- ☆ 多くの問題に取り組ませたり、1つの問題の解き方を複数考えさせたり、ペア学習・グループ活動を通して、話し合い、教え合いの場面設定を授業の中に積極的に取り入れ、その定着を図っていきます。
- ☆ 身に付けた知識・技能を人に説明したり、数学の言葉で記述する力が充分とは言えません。自分の考えを人に分かりやすく伝えたり、発表、説明する活動を授業に取り入れ、表現力の向上を図っていきます。

## ◎ 理科について

区 分	全 国	広島県	牛田中
主として「知識」に関する問題	56.1	55.1	60.9
主として「活用」に関する問題	47.8	47.1	53.1

領域ごとの平均正答率(%)

領 域	全 国	広島県	牛田中
領域全体	51.0	50.2	56.1
物理的領域	45.9	44.4	51.1
化学的領域	56.9	56.6	67.4
生物的領域	50.7	50.0	53.0
地学的領域	52.0	51.6	54.4

問題形式による平均正答率(%)

領 域	全 国	広島県	牛田中
領域全体	51.0	50.2	56.1
選 択 式	60.3	59.9	63.3
短 答 式	49.0	47.8	56.6
記 述 式	32.1	31.3	37.7

## 【定着状況と課題】

- ☆ すべての領域において、全国および県の平均正答率を上回っており、今回出題されている学習内容を概ね身に着けていると考えられます。
- ☆ 化学的領域の問題においては、全設問で全国および県の平均正答率を大きく上回っており、記述式で答える設問でも高い正答率が見られます。化学実験やその内容に対する関心の高さが窺えます。
- ☆ 生物・地学的領域の問題においては、理解が十分とはいえません。特に、カエルの飼育環境の整え方や、豆電球と LED 電球を点灯させる回路の作成について記述で答える問題に対する正答率が低く、応用力、表現力があまり身につけていません。

## 【改善に向けた取組】

- ☆ これからも、実験や観察など生徒が主体的に活動できる授業づくりに努めます。その中で、実験方法を自分で考える活動や、考察したことを発表し合う活動を積極的に取り入れ、応用力、表現力の育成を図っていきます。
- ☆ 自然現象や科学技術に関する職業などと、学習内容とを結びつけて授業で扱うことで、その密接な関係性を意識させ、理科への関心をさらに高めると共に、日常生活での一場面を用いた設問にも対応できるようにしていきます。
- ☆ 「理科の授業は好きですか」に対する肯定的な回答率は63.9%、「観察や実験を行うことは好きですか」に対しては80.9%と、理科の授業を好意的に捉えている生徒が多く見られます。
- ☆ しかし一方で、「理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか」には47.3%、「将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思えますか」には26.1%と、授業内容を日常生活や自分の将来と結びつけて考える生徒は少ないことが読み取れます。